

ご近所のお医者さん

747

かい内科クリニック院長 甲斐達也さん 一大阪狭山市

微小血管性狭心症とは

元々、心臓には目に見える大きな血管のほかに、直径が100μm以下の微小冠動脈が多数存在することが知られています。微小血管性狭心症とは、

この目には見えない血管の血流障害(冠微小循環障害)が原因で起こる狭心症のこと

で、男女問わず幅広い年齢層に起

こり得ますが、特に40代後半〜50代の更年期世代の女性に多発すると言われています。

症状として、典型的な胸部圧迫感だけではなく、喉、あご、背中などの広



範囲にも圧迫感が出ます。3〜5分で収まることが多い通常の狭心症と異なり、10分〜1時間以上と長く続くのが特徴です。

実は、心臓の表面を走る太い血管(冠動脈)は、全体のわずか約5%にしか過

胸痛あっても異常なし？

性狭心症を合併した患者の予後は不良である

ぎません。残りの約95%は目には見えないほど細い微小冠動脈なのです。ただ、微小冠動脈のような0.3mm以下の

細い血管は、カテーテルでの造影検査では評価できないので、微小血管性狭

心症は通常の造影検査のみでは見逃されやすいといった特徴があります。

また、微小血管性狭心症は冠動脈に生じる冠攣縮性狭心症と合わせて、「INOCA」(虚血性非閉塞性冠動脈疾患)と呼ばれます。INOCAは胸の

痛みや息切れといった症状に悩まされているにもかかわらず、造影検査で冠動脈に閉塞や狭窄を認めない疾患です。つまり、検査をしても正常であると診断されてしまうことがあるのです。そのため、「検査で異常がないから、ただのストレスかも」と気のせいにしてしまいがちですが、決して放置してはいけません。微小循環障害と冠攣縮

ことが報告されているためです。

胸の症状などが続き、INOCAが疑われる場合には、心臓カテーテル検査の際に薬剤による負荷検査や、柔らかいワイヤを心臓の血管内に挿入する

ことで、微小冠動脈の血流や抵抗値が調べられるようになっていきますので、

しっかりと診断を付けて治療介入を行っていただきたいと思います。その一歩が将来的な入院や心臓死を防ぐことにつながります。

がります。